NTS物語

二、情報出版企業として

吉田　隆

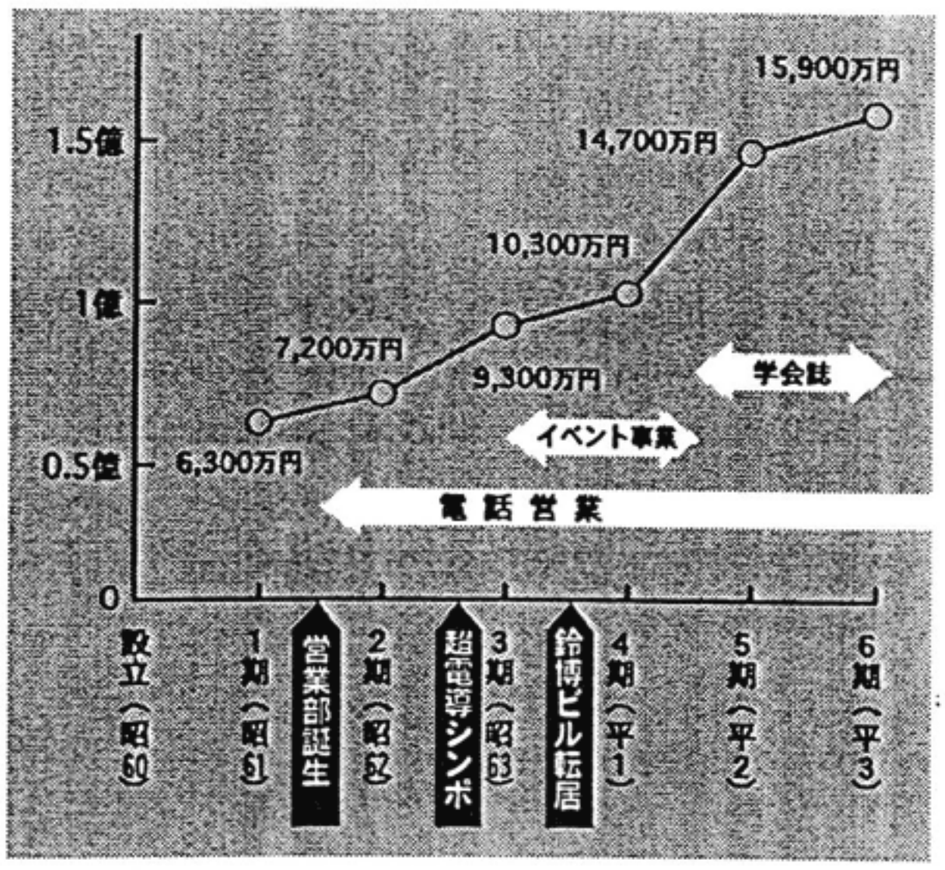
⑤学会誌

昭和六十三(一九八八)年秋頃、清山先生(九州大学名誉教授・ニュース本年二月号参照)から日本表面科学会の学会誌編集の仕事を受けないかとの打診があった。学会との関係は、昭和六十一(一九八六)年より学会設立十周年記念誌「表面科学の基礎と応用」(ニュース本年二月号参照)を制作中でもあった。当時の坂田会長(慶応大学教授)からの電話は翌年一月のことだった。会って話を伺うことにした。話の内容は、学会設立十周年を機に学会誌が隔月刊から月刊に移行することに伴い混乱が予想される編集制作業務及び事務局全般に関するものであった。学会創設時からの女性三名の編集スタッフも手を引くことになり、学会は設立十年目の転機を迎えていたのである。そのため、多少とも学会事務や書籍編集業務の経験があるNTSの意見を聞きたいということ、及びNTSに依頼した場合どこまで対応が可能かという質問であった。答えは、詳細を聞いて判断することにした。春頃、引越したばかりの鈴博ビル六〇一号室に編集担当委員が訪れ業務内容の説明を受けた。担当者の熱心な勧めは引き受け手探しの難しさとNTSを信頼してのことであったのだろう。月刊の学会誌というそれなりにノウハウのいる業務でもあり、短時間の口頭説明だけでは十分理解できない部分もあったが、多少編集経験のあるアルバイトを私が補佐すれば十分な仕事であるという担当者の言葉で気持ちが固まった。事業的には採算の取れる仕事ではなかったが、清山先生からのお話であったことに加え、月刊誌という未知の仕事に挑戦したいという気持ちもあり条件を全て受け入れた上での決断でもあった。

学会との正式の契約は平成二(一九九一)年四月だったが、その間あてにしていた外部の複数の経験者が予算と実際の作業内容との折り合いがつかず辞退するという先行きの厳しいスタートになってしまった。そのため、当時「表面科学の基礎と応用」の進行事務を担当していたアルバイトの○○○と私の二名が進行管理を担当し、制作はITOの○○さんに依頼した。しかし、実際作業に携わってみると質量ともに事前の予想を上回ることがわかった。従来の書籍編集との大きな違いは「査読」「閲読」等の学会誌に特有の編集スタイルとスピードであった。特に月刊誌では時間が勝負である。半年六冊分、約百名の執筆原稿を管理する手法は、同じ百名の執筆陣を要する一冊の大型本とは異なる管理能力が求められた。それはNTSにとって未知の経験であった。それでも当初の二、三ヵ月は前任者の補助があったため何とか乗り切ることができたが、次第に遅れが目立つようになった。その上、前任者は少しずつ手を引くことになっていたため何らかの手を打つ必要があった。丁度、編集企画部では新人を募集中であったが、入社後真っ先に学会誌担当を命ずることになった。その時の新入社員が、○○○○○現編集企画部課長である。

平成二年六月からは、私と○○と○○の三名で対応することにした。ところが十月に○○が退社した。そのため、七月から編集企画部のアルバイトをしていた大学新卒の男性を十月から編集メンバーに加えることにした。翌年四月から正社員となった○○○○現編集企画部課長代理である。○○、○○の二名とも編集経験はなかったが潜在力には見るべきものがあり、七月頃から目立ち始めていた進行の遅れもやがて軌道に乗るという確信があった。しかし、度重なる編集スタッフの入れ替えや発刊の遅れは次第に学会の信頼を損なうことになった。私は編集委員会にスタッフの慣れに多少の時間を要するが、二、三号で軌道に乗ることができると主張した。しかし、信頼を回復するにはいたらず最終的にはNTSから辞退を申し出ざるを得ない状況となった。結局、隔月刊とはいえ三名のベテラン女性が従事していた仕事なのであるから、アルバイトと私の補助があれば十分であるという事前の説明に対する私の読みが甘かったとも言える。そうした思いが辞退に際しての学会へのかたくなな対応となって顕れてしまったが、前述の通り全てを承知の上で始めたことなのであるから潔く力が及ばなかったことを認め、設立十年目の飛躍を計ろうとした学会の出鼻を挫くことになったことを率直に詫びるべきであったと今にして思うのである。清山先生の期待に対して実力以上の背伸びをし過ぎた面があったのかもしれない。又この間、社内の関係者にも余分な苦労をかけてしまった。反省することの多い一年であったが、こうした苦況の中でも前向きにノウハウの吸収に努め、現在編集企画部の柱に育った二名のスタッフの成長を始め得たものも大きかったのである。その後の大型本の充実と発展もこの時の経験があってこそのものであろう。

イベントの後の学会誌という対極的な経験であったが、こうした試行錯誤の末、第五期(平成元年七月～平成二年六月)の売上は一億四千七百万円と売上が初めて一億を超えた第四期から更に四十%以上の伸びを示した。だが、当期発刊した書籍は「高温超電導の基礎と応用」(平成二年四月)「ルミネッセンスの基礎と応用」(平成二年六月)の二冊のみである。売上げの大幅増加は、三年目に入り更に充実した営業部の健闘に因るところが大きい。イベントや学会誌への挑戦も、その健闘の上に成立っていたことを思い知る。



掲示板

今月の人事

十一月十五日入社　営業部
十一月二十六日退社　市川

社内清掃について

次の日程で、本社事務所内の床掃除を行ないますので宜しくお願い致します。当日休日出勤の予定がある場合は作業に支障がありますので、必ず総務部に連絡して下さい。

十二月二十六日(日)

平成十一年忘年会実行委員会からのお知らせ

お詫びと訂正

先月号でお知らせした開催日を都合により変更いたしました。ここにお詫びして訂正いたします。

開催日　十二月九日→十二月十六日(木)

参加費のお支払いについて

十二月十五日までに編集企画部○○○○又は○○○まで会費(女性三千円　男性三千五百円)をお持ち下さい。なお、開催日当日までに来社されない方につきましては、当日会場受付にてお支払い下さい。

◇編集後記

東京の夜は、街が明るすぎて月の、その存在があまりにも目立たない。私の田舎では月は夜道の明りに重宝したものだったが…。月をまじまじとみると模様があることに気付く。私はその模様が見たくて、小学生の頃に天体望遠鏡を買った。

残念なことに今の私は、月はおろか、その頃の何にでも興味を持った好奇心さえも失ってしまっているようだ。歳は無常に取られていくがこういう気持ちは取られてはいけない。(伊)

NTSニュース一九九九年十一月号(通巻十七号)
一九九九年十一月二十五日発行